

—あまりにも想像を超えていて、いま目の前で演奏されているのが
自分が知っている「ホルン」という楽器なのかどうか、確かめてしまうほどだ。

—どこを取っても「歌って」いる。しかも滑らかな極上の音色。
ギネスブック認定の世界一難しい金管楽器を操っているという
労苦を微塵も感じさせない…。

ラデク・バボラーク (ホルン) Radek BABORÁK, Horn

1976年チェコのパルビツェ生まれ。8歳よりホルンを学び、89年よりブラハ音楽院でベドジフ・ティルシャル教授に師事、みるみるうちに頭角を現していった。ブラハ、ジュネーヴ、マルクノイキルヒェンに続き、94年、ミュンヘン国際コンクールで優勝、「美しく柔らかな音色」、「完璧な演奏」、「ホルンの神童」と評されるなど、世界の注目を集めた。

以来、ヨーロッパ、アメリカなど各地で活発な演奏活動を展開。小澤、バレンボイム、ラトル、レヴァインなどトップクラスの指揮者の信頼も厚く、これまでベルリン・フィルはもちろん、バイエルン放送響、ミュンヘン・フィル、ベルリン・ドイツ響、バンベルク響、ケルン WDR 響、チェコ・フィル、ロンドン・フィル、スイス・ロマン管、サンクトペテルブルク・フィル、ザルツブルク・モーツァルテウム管等と共演。その拔き出したテクニックと成熟した音楽が大きな話題になっている。世界中のコンサートホールはもちろん、ザルツブルク復活祭、フィレンツェ五月祭、サンクトペテルブルク白夜祭、ブラハの春、エルサレム室内楽フェスティバル、パシフィック・ミュージック・フェスティバル等の音楽祭にも定期的に招かれている。

これまでチェコ・フィル、ミュンヘン・フィル、バンベルク響、ベルリン・フィルのソロ・ホルン奏者を歴任。その他にもサイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管をはじめとする世界のオーケストラにも参加。室内楽の分野でも、チェコの仲間達と結成した木管五重奏団アフラートゥス・クインテット、バボラーク・アンサンブルでの活動をはじめ、イェフイム・ブロンフマン、アンドラーシュ・シフ、ルドルフ・ブフビンダー、ゲアハルト・オピッツ、ジュリアン・ラクリン、ジャニーヌ・ヤンセン、樫本大進、エマニュエル・パユ、アルブレヒト・マイヤー、フランソワ・ルルー、イアン・ポストリッジ、トーマス・クヴァストホフ、ワルトラウト・マイヤー等の素晴らしいリスト達と共演している。

また近年は指揮者としての活躍も目覚ましく、自ら創設したチェコ・シンフォニエッタの定期的なシリーズとレコーディングを開始、ヨーロッパでの客演を重ね、日本でも2013年水戸室内管弦楽団定期演奏会にデビュー、オーケストラ、そしてもちろん聴衆からも絶大な支持を集めた。2015年には新日本フィルハーモニー交響楽団とグリエールのホルン協奏曲をソリスト兼指揮者として演奏、圧倒的な名演で聴衆を魅了した。

バボラークの尊敬するホルン界の巨匠ヘルマン・パウマンは「彼の演奏は我々を18世紀の祝祭的な雰囲気へと連れていってくれる。チャーミングで柔らかな音色はこの上なく耳に心地よく響く。その演奏の繊細さと表現力の豊かさはホルンという楽器を最高に歌わせ、その解釈は自然な力とナイーブな素朴さを生み出す」と評している。



BABORAK

ENSEMBLE

バボラーク・アンサンブル

- ダリボル・カルヴァイ Dalibor Karvay (ヴァイオリン)
- マルティナ・バチョヴァー Martina Bačová (ヴァイオリン)
- カレル・ウンターミュラー Karel Untermüller (ヴィオラ)
- ハナ・バボラコヴァ Hana Baboráková (チェロ)
- シュテパン・クラトホヴィル Stepan Kratochvil (コントラバス)

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は
一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

■交通アクセス
地下鉄栄駅⑫番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック



名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00~16:00
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業